

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第6回和文会誌分科会 開催日：8月4日。出席者：松下主査，ほか15名。

1. 論文審査報告

26件の報告があり，掲載可21件，修正依頼5件

2. 鉄と鋼第58年第1号掲載論文選定

論文10件，技術資料2件を選定

3. 審査用紙について

最終案を検討の結果決定

4. 特集号について

「非調質高張力鋼の研究と開発」につきテーマならびに執筆案が報告された。

第6回欧文会誌分科会 開催日：8月25日。出席者：橋口隆吉主査，ほか11名。

1. 18件の論文について審査報告がなされた。

2. 委員よりの推薦と「鉄と鋼」57年9号から4件の論文について投稿を勧誘することとなった。

共同研究会

製鋼部会

鑄型分科会 開催日：8月4日。出席者：太田主査代理，ほか54名。

1. 岡部主査欠席により川鉄，千葉，製鋼部長太田氏が主査を代行して，議事が進められた。

2. 議題

(1) 鑄型，定盤の材質，製造技術に関する研究

(2) 鑄型，定盤の設計技術に関する研究

(3) 鑄型，定盤の使用管理，修理技術に関する研究

(4) 海外文献の紹介

原子力部会

シャフト炉小委員会 開催日：8月16日。出席者：松下委員ほか11名。

1. 事務報告

昭和45年度のシャフト炉の共同研究で受けた通産省補助金に対して会計監査が行われた旨報告された。

2. 第V期シャフト炉連続運転状況報告

実験担当者の新日鉄基礎研原研究員より第V期運転状況が報告された。とくに工業炉に相当する条件下での生産性を推定し得るデータ採取を目的として行なわれたがメタンガスを5%程度混入させたときにはその分解速度と分解熱の扱い方に問題の残る点が指摘された。

3. 第2次協定書(案)の検討

昭和46年度の研究費用分担についての協定書案について審議して最終案を決めた。

標準化委員会

機械試験方法分科会 SC6 分科会合同会議

開催日：7月26日。出席者：吉沢武男主査，ほか16名

1. ISO R 148 の改訂提案について

Vノッチの寸法許容差に関するスエーデン提案に対する検討を行なった。

2. AMMRC の邦訳紹介

AMMRC のシャルピーV切欠き衝撃試験について試験装置，試験機の検定，試験片の製作と検査，試験技術，試験機の証明など各項目についての紹介が3氏からあった。

3. シャルピー衝撃試験機の Foundation について

AMMRC の検討結果から Foundation について重要視していることが判明したので，共同実験を行なうことにした。

SC 9 分科会 開催日：7月27日。出席者：安藤卓雄主査，ほか9名。

1. JIS G 3303 (ぶりきおよびぶりき原板) の見直し検討

工業技術院から見直し検討を委託されたもので，現行規格の改正意見についてアンケート調査を行ない，その結果について検討を行なった。ほぼ全面的な手直しが必要のようであるが，見直しの要否は次回決定することにした。

SC3, SC8, SC10, SC12 合同分科会

開催日：8月5日。出席者：青木朗座長，ほか14名。

1. TC17/SC3, SC8, SC12 国際会議報告

6月開催された上記 SC について福原，青木，三佐尾各氏から国際会議出席報告があつた。

2. 42キロクラス鋼について

わが国の鋼材のベースとなつている SS41 クラスの鋼が，TC17/SC3 の会議では 44 キロ鋼に 1 本化されたが，TC17/SC12 では 42 キロと 44 キロをいずれも残す状況になつている。したがつて，わが国としては 42 キロクラス鋼を残すように各国に働きかけることにした。その対策は次回検討する。

SC8 分科会 開催日：8月20日。出席者：青木朗主査，ほか7名。

1. Column および I-Beam の審議

Column (高さと同様な H 形鋼) と I-Beam (高さと同様な H 形鋼) は，すでに 1969 年のブラッセル会議および 1970 年のエジンバラ会議で賛成しておりこの案で現有ロールのほぼ 90% はカバーできるため，今回も賛成の回答をすることにした。

2. I 形鋼，みぞ形鋼の New Working Group に対

する参加資格の決定

I 形鋼, みぞ形鋼の標準寸法については各国提案の寸法にかなりの相異が認められ, 諸般の情勢から JIS を ISO に盛り込むことは困難である. しかしみぞ形鋼の生産もかなりの量を占めているので, Oメンバーとして参加することに決定した.

.....
原子力用鋼材分科会 開催日: 8月18日. 出席者: 野村純一, ほか5名.

1. ASTM A 193 および A 540 に対する JIS 原案の素案作成

高温用合金鋼ボルト材 (A 193) および特殊用途用合金鋼ボルト用棒鋼 (A 540) について ASTM 1971 年版をもとに各条項ごとの逐条審議を行なったが, さらに次回継続審議することにした.

.....
国際鉄鋼技術委員会 開催日: 8月18日. 出席者: 豊田茂委員長, ほか10名.

6月28日~7月1日にブラッセルで開催された国際鉄鋼協会技術委員会第3回定例会議の報告が, 日本側代表である梅根英二氏より行なわれた. 主な議題, 問題点は下記のとおりである.

1. 設備操業データ交換の範囲拡大について

従来は焼結, 高炉, 転炉の設備操業データ交換を行なっている. 今回, 大型電気炉, 連鑄, ホットストリップミル, ワイヤロッドミルについても同様にデータ交換する提案が行なわれた. これには種々の問題点があり, 各国の意見もまちまちで結論は得られなかった. 今後も日本側としては米国その他と同様に反対の態度で臨むことになった.

2. 技術委員会への新しい提案

フランス代表の Coche 氏より, 技術委員会で「鉄鋼業における技術の現状と将来の動向について年1回報告する」という提案があり, 具体的に進めることになった. 日本側としては「鉄と鋼」, 「鉄鋼界」の記事を充実させて提出する方向で協力することになった.

3. 鉄鋼業における各種エネルギーの利用

上記テーマのもとに各国より報告があり, その主なものは下記の通り

-formed coke process developed by BHP-pilot plant research on the use of prereduced pellets in a blast furnace by CNRM-the latest development of F7G process of NSC-some experience obtained in relation of FMC coke briquettes
 -the use of hot briquettes and formed coke in the blast furnace

ジェットエンジン用耐熱合金研究委員会

開催日: 7月15日. 出席者: 雑賀幹事, ほか23名.

1. 試験研究終了届書について

幹事会で作成し通産省へ提出した旨報告があつた.

2. 運営方針について

運営方法について各社からアンケートを取った結果19社のうち5社が当委員会の不参加を表明した. またジェットエンジン用耐熱合金のほか, 化学プラント用リホーマ材料を加えて熱疲労特性のデータを収集して行く方針である.

3. 試験方案について

供試材料は, Inco 713 LC, ハステロイ X, U-500, HK 40, HP, X-40 を取り上げ, 結晶粒度の影響, 大気溶解材と真空溶解材の比較, 炭化物析出状態の影響, 鍛造材と鑄造材との比較などについて新型試験機を中心にデータを収集して行くことになった.

鉄鋼基礎共同研究会

.....
遅れ破壊部会 開催日: 7月28日. 出席者: 藤田部会長, ほか13名.

1. 第15回鉄鋼基礎共同研究会運営委員会経過報告

2. 研究発表

(1) 「軟鋼の延性破壊過程」

南雲道彦 (新日鉄 基礎研)

(2) 「鉄単結晶における劈開破壊の発生と伝播」

北島一徳 (九大 応用力学研究所)

.....
固体質量分析部会 開催日: 8月6日. 出席者: 須藤部会長, ほか8名.

先に同じ鉄鋼基礎共同研究会内にあつた純鉄部会の閉会に伴ない懇談会であつたものが今回より部会に昇格することになった. 委員参加資格として固体質量分析装置の保有が条件であり目下新規参入を呼びかけている. 当面のテーマとして従来行なわれてきた共通純鉄試料の再検討のほか, 固体マスによるガス分析 (試料中のガス成分として) およびイオンマイクロアナライザーなどによる表面層の偏析の分析が取りあげられた. 部会の運営方針や来年度予算については次回に再度検討する予定である.